

「建設産業ミライ振興プラン HOKKAIDO」の策定について

北海道 建設部 建設政策局 建設管理課

北海道では、令和5年3月に新たな建設産業振興施策となる「建設産業ミライ振興プラン HOKKAIDO」を策定しました。本稿では、このプランの概要について紹介します。なお、本稿の章立て・説明は図-1のプラン概要版に沿っていますので、あわせてご覧ください。

第1章 はじめに

まず、策定の趣旨として、本道の建設産業には、人材の確保・育成や生産性の向上などの課題があることから、地域の安全・安心や経済・雇用を支える建設産業の持続的な発展を図るためにプランを策定しました。令和5年度から9年度までの5年間で推進期間とし、名称は誰もが親しみを持って、カタカナやアルファベットを用いて表記しました。

第2章 建設産業を取り巻く現状

建設産業の現状は、売上高営業利益率が改善傾向にある一方で、就業者の高齢化や若年者の入職が進まないなどの課題があり、新規高等学校卒業者の求人充足率は全産業で最低となっています。また、建設労働者の月間実労働時間が全国平均を

上回るなど厳しい状況が続いているほか、働き方改革関連法に伴う時間外労働規制や新型コロナウイルス感染症を契機とした「新たな社会情勢の変化」もあります。

第3章 前プランの評価・検証

新プランの検討に当たり、前プランの推進事業について、実績などにより効果等を評価する「事業実績評価」のほか、「客観的指標評価」、「満足度評価」の3つの手法により評価を行いました。そのうち満足度評価の結果について、グラフで表しています。これは建設企業を対象に行ったアンケートに基づき、前プランの取組の重要度と満足度の平均により、取組の優先度を分類したものです。

横軸は取組の重要度、縦軸は取組の満足度を表しています。右下の黒い太枠で囲んだ「重点改善項目」が、建設企業にとっては、重要度が高いにもかかわらず、取組への満足度は低い項目であり、「実勢価格を反映した単価の設定や適切な設計変更」、「産学官連携のインターンシップなどの体験的な学習活動を実施」、「ICT活用により施工の簡略化や書類作成などの省力化」といった取組を優先的に改善すべきとの調査結果となっています。

建設産業ミライ振興プランHOKKAIDO ＜概要＞

1 第1章 はじめに

策定の趣旨

本道の建設産業は、就業者の高齢化や若年者の入職が進まないなど、人材の確保・育成や生産性の向上などの課題があることから、地域の安全・安心や経済・雇用を支える建設産業の持続的な発展を図るため、将来、担い手となる若者や子どもたちにとって建設産業の未来【ミライ】が魅力あるものとなることを目指し「建設産業ミライ振興プランHOKKAIDO」を策定する。

推進期間

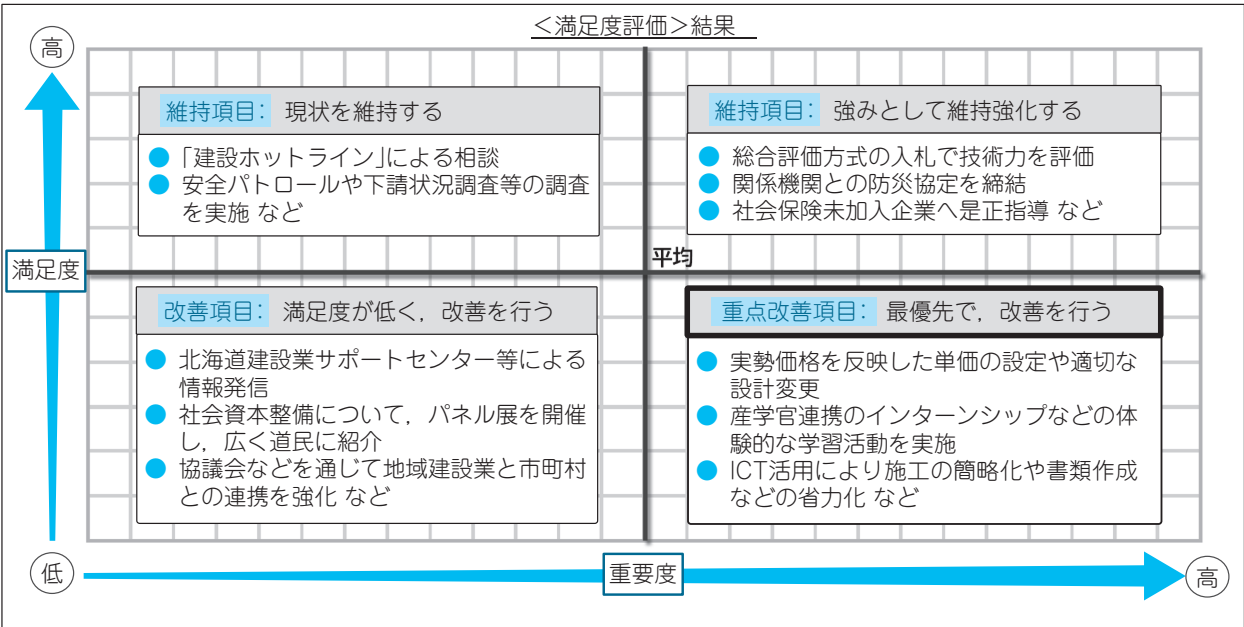
2023年度
(令和5年度)
～
2027年度
(令和9年度)
5年間

2 第2章 建設産業を取り巻く現状

建設産業の現状	道内建設業売上高営業利益率 H25 1.3%→R3 4.8% (近年は改善傾向)	新たな社会情勢の変化	働き方改革関連法	新・担い手3法	ICT・DX(情報通信技術)
	R3道内建設業就業者年齢構成比 50歳以上：55% (若年層は 29歳以下：10% 低下傾向)		<ul style="list-style-type: none"> R6～時間外労働の罰則付き上限規制適用 原則・月45時間、年360時間 	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革の推進、生産性向上への取組 災害時の緊急対応の充実強化 	<ul style="list-style-type: none"> 建設現場の生産性向上 i-Constructionの推進(国) ICT活用モデル工事の拡充(道)
	R3道内新規高等学校卒業者 求人充足率 16.9% (全産業別で最低の充足率)		新型コロナウイルス	ゼロカーボン北海道	防災・減災、国土強靱化
	R3道内建設労働者 月間 実労働時間 173.2時間 (全国平均 165.3時間を上回る)		<ul style="list-style-type: none"> 「三つの密」を回避した「新たな日常」の構築 テレワークやWeb会議の浸透、遠隔臨場の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 2050年までに道内の温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指す 再生可能エネルギー導入拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 災害の激甚化・頻発化、インフラ老朽化加速 防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策(実施期間：R3～R7)

3 第3章 前プランの評価・検証

<ul style="list-style-type: none"> 事業実績評価 客観的指標評価 満足度評価 	<p>「236本の推進事業」の実績や達成度等により、各事業及び施策の効果等を評価</p> <p>「13本の施策」に関連する各種統計指標の変動等の状況により、客観的に評価</p> <p>「44本の取組」に対する建設企業の満足度調査により、取組の優先度を分類</p>
--	---



総括(効果・課題)	1 経営力の強化	2 担い手確保・育成の強化	3 地域の安全・安心の確保	4 建設産業の環境整備
	<ul style="list-style-type: none"> 売上高営業利益率・月間現金給与額は上昇 施工時期の平準化や実勢単価の反映、ICT活用等による生産性向上が今後の取組として重要 	<ul style="list-style-type: none"> 高校生等の内定者数減少や建設企業の求人への充足率が低下 労働時間や休日の確保等就業環境の改善や、高校生、一般の方へ実効性のある理解促進策が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 事業継続計画策定や災害対応実績の総合評価への反映等により地域力の強化が進む 市町村に対するダンピング対策や週休2日等の周知等に低い評価 	<ul style="list-style-type: none"> 法令遵守、適切な元請・下請関係等、公正な市場環境整備が進む 企業経営は「本業強化」を重視し、「新分野や道外への進出」への支援ニーズは減少

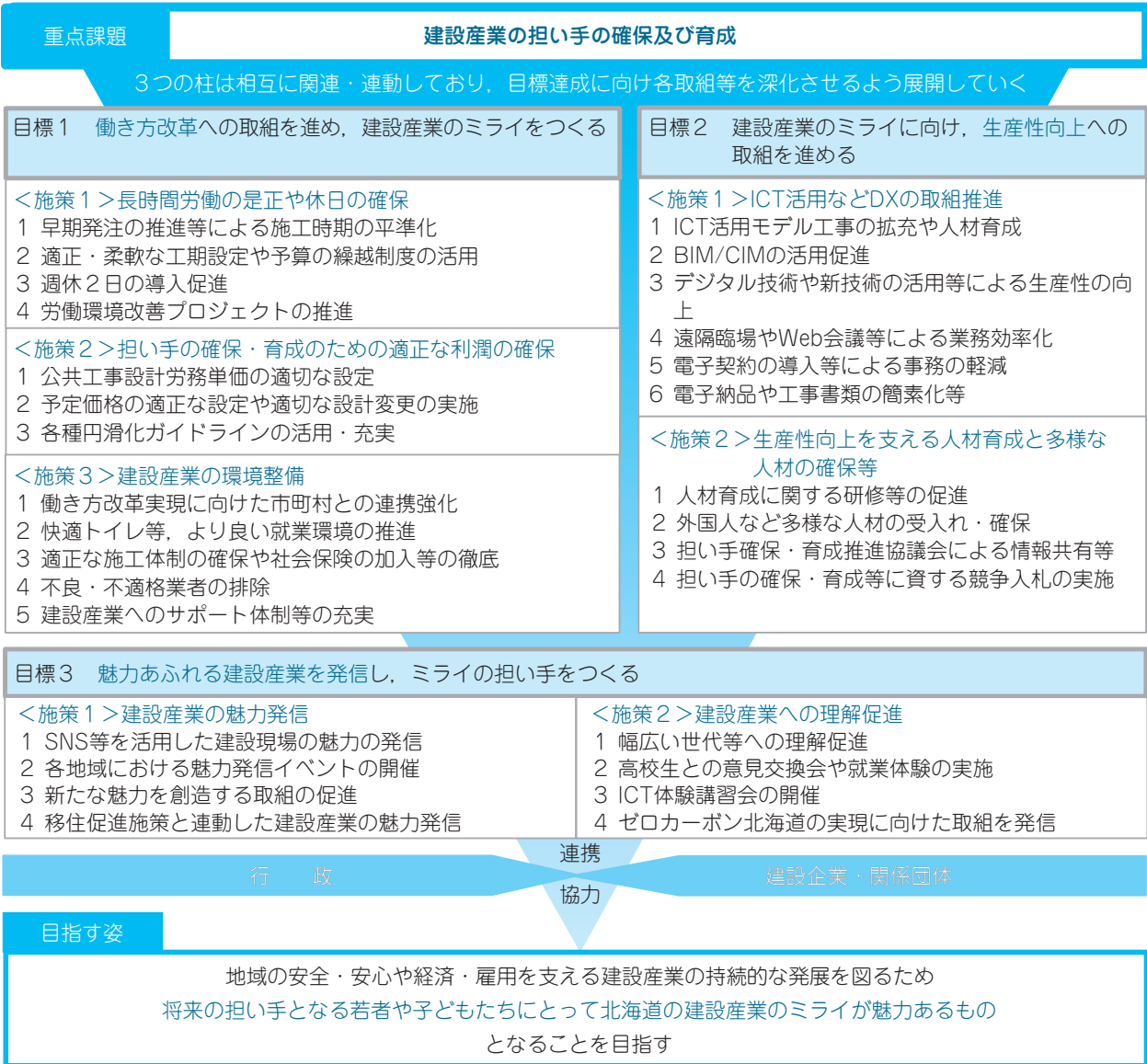
図-1 建設産業ミライ振興プラン HOKKAIDO の概要①

4 第4章 基本的な考え方

建設産業の現状や前プランの評価、建設企業や建設業審議会の意見を踏まえ、「建設産業の担い手の確保及び育成」を早急に解決すべき重点課題とし、その解決に向けて、建設産業の「働き方改革」、「生産性の向上」、「魅力の発信」を3つの柱とし、将来の担い手となる若者や子どもたちにとって北海道の建設産業の未来【ミライ】が魅力あるものとなることを目指し、関係団体等と連携し、取組を展開する。

建設企業・意見	<ul style="list-style-type: none"> ◆施工時期の平準化や現場の施工方法を反映した積算や柔軟な設計変更など、現場単位で適正な利潤の確保を図ることが、最も重要 ◆ICT活用はペーパーレス化、電子契約等の事務効率化やゼロカーボン北海道にも寄与。様々な作業が簡略化し、スマートになるよう期待 ◆SNS等を活用しICT活用の現場、ドローンや三次元図面などを紹介。若者の「興味」を建設業に結びつけ、3Kの悪いイメージを払拭 	建設業審議会・意見	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍により企業はWeb会議やテレワークに取り組んだ。北海道の地域特性もあり、移動時間減少は、生産性の向上や働き方改革にもつながる ◆人口減少が進み、人手不足は多くの業界の課題。移住施策と連携し、北海道の魅力をあわせてPRするなど地域全体で課題解決にあたる視点も必要 ◆土木施設の老朽化が進み、突発的な維持業務が増加。建設業者がいない地域もあり災害、大雪対応等のフォローが課題。広域連携がキーワード
---------	---	-----------	---

5 第5章 施策と取組の展開



6 第6章 プランの推進

施策に関連する各種統計データ等に基づき、社会経済情勢の変化を的確に把握し、毎年度点検・評価を行い、次年度の取組に反映させるなど、PDCAサイクルにより、プランの着実な推進を図る。

図-1 建設産業ミライ振興プラン HOKKAIDO の概要②

その下段には、これら3つの評価結果の総括として、「経営力の強化」など前プランにおける4つの目標ごとに効果・課題などを取りまとめています。

第4章 基本的な考え方

基本的な考え方として、建設産業を取り巻く現状や前プランの評価・検証のほか、建設企業や北海道建設業審議会からのさまざまな意見、さらには、現場で働く方々から直接お話を伺うなどして「建設産業の担い手の確保及び育成」を早急に解決すべき重点課題と位置付けました。その解決に向けて、建設産業の「働き方改革」、情報通信技術の活用等を通じた「生産性の向上」、そして一般の方や若者の関心や理解を深める効果的な「魅力の発信」を3つの柱として、関係団体等と連携しながら取組を展開することとしています。

第5章 施策と取組の展開

また、施策と取組の展開に当たり3つの目標を設定しました。目標1は「働き方改革への取組を進め、建設産業のミライをつくる」として、「長時間労働の是正や休日の確保」など3つの施策と12の取組、目標2は「建設産業のミライに向け、生産性向上への取組を進める」として、「ICT活用などDXの取組推進」など2つの施策と10の取組、目標3は「魅力あふれる建設産業を発信し、ミライの担い手をつくる」として、「建設産業の魅力発信」など2つの施策と8つの取組となっています。目標達成に向け、これらの取組や関連する推進事業を展開していきます。

ここで目標3の「魅力あふれる建設産業を発信し、ミライの担い手をつくる」に係る取組事例について、いくつか紹介します。

(1) 若手建設業就業者との意見交換会

建設業団体等と連携し、若手建設業就業者と高



写真-1 意見交換会の様子

校生との意見交換会を実施することにより、就職先に対する疑問や不安等を解消し、進学先に建設系の学校を選択するきっかけとなる情報を提供するなどして高校生の建設産業への理解を深め、勤労観・職業観を醸成します（写真-1）。

(2) ICT 体験講習会

高校生を対象に、ICTを活用した建設技術に関する座学とドローンの操縦体験等からなる講習会を実施、生産性の向上や安全性の確保等につながる、建設産業におけるICTの活用状況を伝えることで、入職を促進します（写真-2）。



写真-2 ICT 体験講習会

(3) 建設産業ふれあい展

建設産業の役割や魅力, 重要性について一般の方に理解を深めていただき, 将来の担い手確保へつながることを期待して開催するものです。ものづくりやバーチャルリアリティーなどによる工夫を凝らした体験イベントをはじめ, 建設産業への理解を深めるクイズラリーやパネル展などを通じて, 子どもから大人まで幅広い年代の方々に建設産業を身近に感じてもらうきっかけづくりをします(写真-3)。



写真-3 建設産業ふれあい展の様子

(4) SNS を活用した情報発信等

情報発信には, これまでホームページやメールマガジンなどを活用してきました。今年度からは, より広く情報発信していくために新たに X (旧 Twitter) アカウントを開設, 建設産業の役割や魅力, それに関する取組や役立つ情報などをタイムリーに, 身近に感じていただけるよう発信しています。

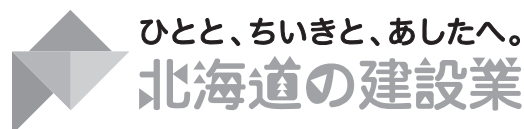
建設産業ミライ振興通信「道しるべ」アカウント:

https://twitter.com/signpost_ksk
【北海道建設政策局建設管理課ホームページの関連サイト】 <https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kn/ksk/ksks/boshu/signpost.html>



また, 建設業の果たしている役割や重要性を

PRするとともに, イメージアップを図り, 親しみやすい建設業となるように「北海道の建設業」のロゴマークを公募して, パンフレットや名刺等に掲載するなどして活用しています。



「ひとと、ちいきと、あしたへ。」は, 北海道に住まう人々が安全に, 安心して暮らしていただけること, 地域社会に貢献すること, 次世代に向けた社会資本の整備に取り組み, そしてそれらを伝え遺していくことを建設産業が担う社会的責任として, 建設産業のさらなる発展へとつなげていきたいという想いを込めた言葉です。

第6章 プランの推進

最後に, プランの推進に当たっては, 各施策の取組状況について, 社会経済情勢の変化を的確に把握し, 毎年度点検・評価を行い, 次年度の取組に反映させるなど, PDCA サイクルによりプランの着実な推進を図っていきます。また, 施策の展開に当たっては, より即応性が高く実効性のあるものとなるよう, 実際の現場の状況や意見を重視し, 迅速に課題対応を行う OODA ループにより, 事業や取組の質を高めていくこととしています。

以上, 概要版で紹介しましたが, 北海道では, 本プランに基づき将来の担い手となる若者や子どもたちにとって, 本道の建設産業の未来が魅力あるものとなるよう, 関係団体や教育機関等と連携を図りながら, 建設産業の持続的な発展に向け, 引き続き取組を進めていきます。

プランの「本編」, 「資料編」, 「推進事業一覧」につきましては, 北海道ホームページに掲示していますので, ぜひ参照ください。

【北海道建設政策局建設管理課ホームページの関連サイト】 <https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kn/ksk/ksks/index.html>